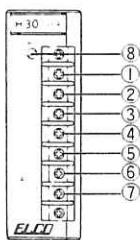


1. 端子配列・ボリューム

- ①+E +出力端子
- ②-E -出力端子
- ③RC リモートコントロール端子
- ④SG リモートコントロールGND端子
- ⑤FG 接地端子
- ⑥ 入力端子 AC85~110V
⑦ 1φ 48~62Hz
- ⑧V.ADJ 出力電圧可変ボリューム



2. 機能説明

■2.1 突入電流

- 入力突入電流防止回路を内蔵しています。(AC 100V時10A max)。
- 入力にスイッチなどをご使用の場合、入力突入電流に耐えるものをご使用ください。

■2.2 過電流保護

- 定格電流の110~140%の電流を出力に流すと、過電流保護回路が動作します。
- 過電流状態での使用は、電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■2.3 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は入力電源の再投入で行えますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■2.4 リモートコントロール

- R C端子とS G端子(又は-E端子)をショートすると出力し、開放で出力は出なくなります。
- TTL、トランジスタ、及びリレー接点で制御できます。

■2.5 出力電圧可変

- 出力電圧の可変は前面パネルのV.ADJのボリュームで行い右回転で高く、左回転で低くなります。
- 可変範囲は出力電圧の±10%又は±1Vのいずれか低い方です。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

■2.6 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々に上げてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

- 2台以上の電源を直列運転(図1)される場合は定格以上の電流が流れないよう注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。

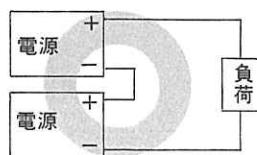


図1

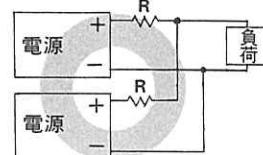
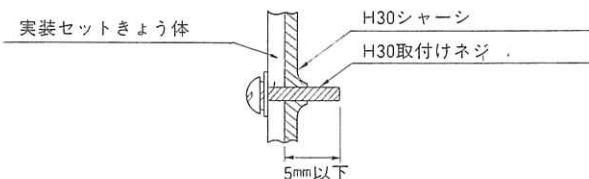


図2

4. 取付けネジ

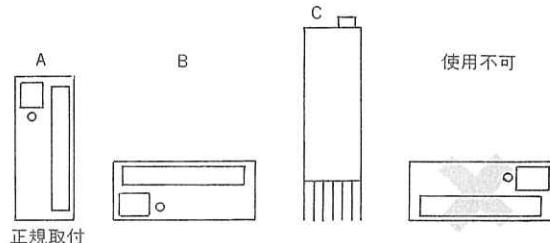
■電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため下図を守ってください。



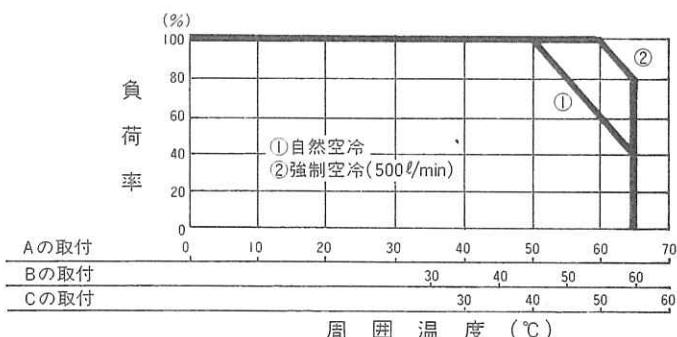
5. 出力ディレーティング

■H30を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは次の要領でご使用ください。

(1)取付方法

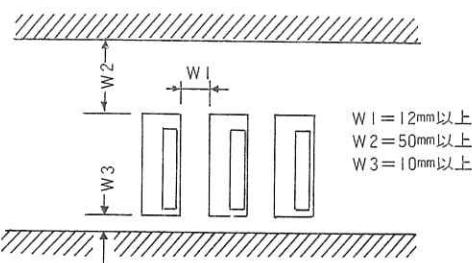


(2)ディレーティング表



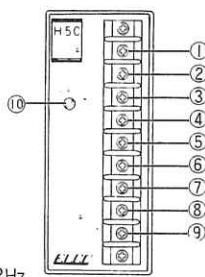
6. 複数の電源の使用

■複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は12mm以上あけ、自然対流を考慮してください。



1. 端子配列・ボリューム

- ① +S リモートセンシング端子
- ② +E 出力端子
- ③ -E 一出力端子
- ④ -S リモートセンシング端子
- ⑤ RC リモートコントロール端子
- ⑥ SG リモートコントロールGND端子
- ⑦ FG 接地端子
- ⑧ 入力端子 AC 85~110V 1φ 48~62Hz
- ⑨ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム
- ⑩ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム



2. 機能説明

■ 2.1 過電流保護

- 定格電流の110~140%の電流を出力に流すと、過電流保護回路が動作します。
- 過電流状態での使用は、電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■ 2.2 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると、過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は入力電源の再投入で行えますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■ 2.3 リモートコントロール

- RC端子とSG端子（又は-S端子）をショートすると出力し、開放で出力は出なくなります。
- TTL、トランジスタ、及びリレー接点で制御できます。

■ 2.4 出力電圧可変

- 出力電圧の可変は前面パネルのV.ADJのボリュームで行い右回転で高く、左回転で低くなります。
- 可変範囲は出力電圧の±10%又は±1Vのいずれか低い方です。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

■ 2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

- 2台以上の電源を直列運転（図1）される場合は定格以上の電流が流れないよう注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。

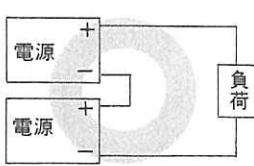


図1

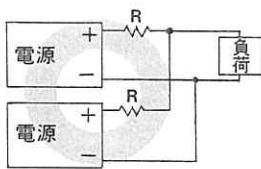
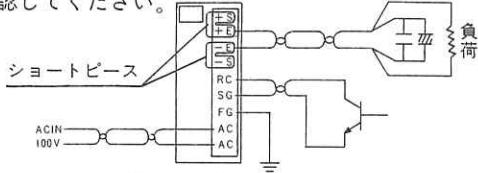


図2

4. 負荷の接続及び布線

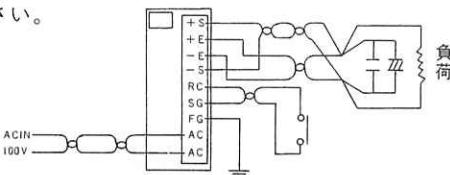
(1)リモートセンシングを行なわない場合

- ショートピースで+Sと+E、-Sと-E間が各々短絡されていることを確認してください。



(2)リモートセンシング行なう場合

- ショートピースをはずして配線してください。
- AC入力の線と出力の線は分離し、ツイストした方が耐ノイズ性能が向上しスパイクノイズも小さくなります。
- 出力の線は太く短く配線して、ラインドロップは0.3V以下にしてください。
- リモートセンシングのセンス線はツイストするかシールド線をご使用ください。



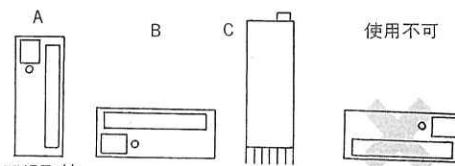
5. 取付けネジ

- 電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため、電源内部に入る長さは5mm以下にしてください。

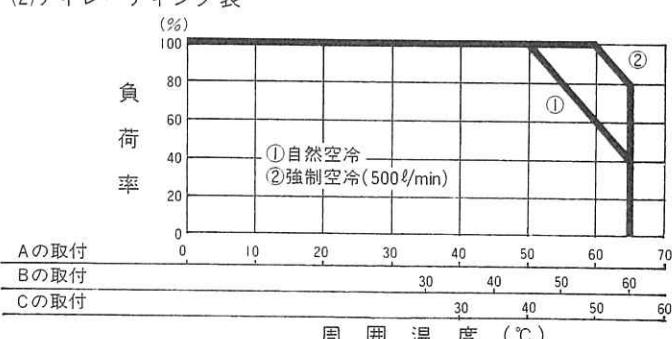
6. 出力ディレーティング

- H50を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは次の要領でご使用ください。

(1)取付方法

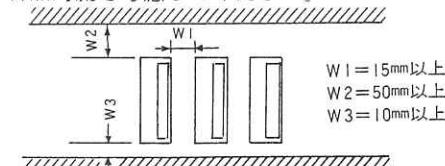


(2)ディレーティング表



7. 複数の電源の使用

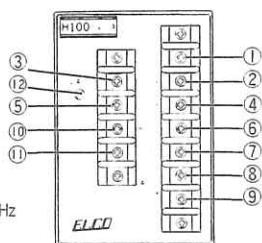
- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、電源の間隔は15mm以上あけ、自然対流を考慮してください。



H100 取扱説明

1. 端子配列・ボリューム

- ① +S リモートセンシング端子
- ② } +E +出力端子
- ③ }
- ④ } -E -出力端子
- ⑤ }
- ⑥ -S リモートセンシング端子
- ⑦ FG 接地端子
- ⑧ } 入力端子 AC85~110V 1φ 48~62Hz
- ⑨ }
- ⑩ RC リモートコントロール端子
- ⑪ SG リモートコントロールGND端子
- ⑫ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム



H

2. 機能説明

■ 2.1 過電流保護

- 定格電流の110~140%の電流を出力に流すと、過電流保護回路が動作します。
- 過電流状態での使用は、電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

■ 2.2 過電圧保護

- 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると、過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。
- 復帰は入力電源の再投入で行えますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

■ 2.3 リモートコントロール

- RC端子とSG端子（又は-S端子）をショートすると出力し、開放で出力は出なくなります。
- TTL、トランジスタ、及びリレー接点で制御できます。

■ 2.4 出力電圧可変

- 出力電圧の可変は前面パネルのV.ADJのボリュームで行い右回転で高く、左回転で低くなります。
- 可変範囲は出力電圧の±10%又は±1Vのいずれか低い方です。
- 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

■ 2.5 絶縁耐圧

- 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々にさげてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

- 2台以上の電源を直列運転（図1）される場合は定格以上の電流が流れないよう注意して行なってください。
- 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。
- 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。

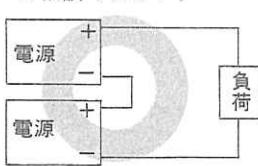


図1

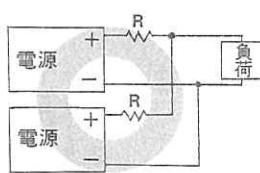
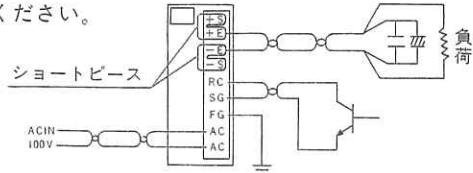


図2

4. 負荷の接続及び布線

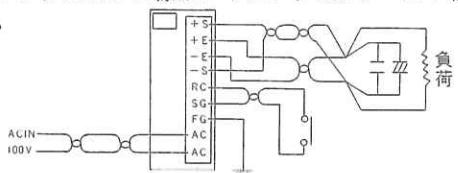
(1) リモートセンシングを行なわない場合

- ショートピースで+Sと+E、-Sと-Eが各々短絡されていることを確認してください。



(2) リモートセンシングを行なう場合

- ショートピースをはずして配線してください。
- AC入力の線と出力の線は分離し、ツイストした方が耐ノイズ性能が向上し、スパイクノイズも小さくなります。
- 出力の線は太く短かく配線して、ラインドロップは0.3V以下にしてください。
- リモートセンシングのセンス線はツイストするかシールド線をご使用ください。



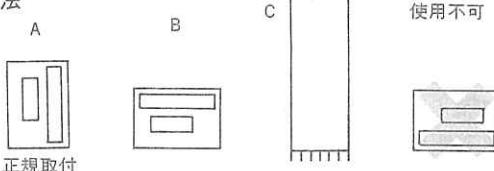
5. 取付けネジ

- 電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため、電源内部に入る長さは5mm以下にしてください。

6. 出力ディレーティング

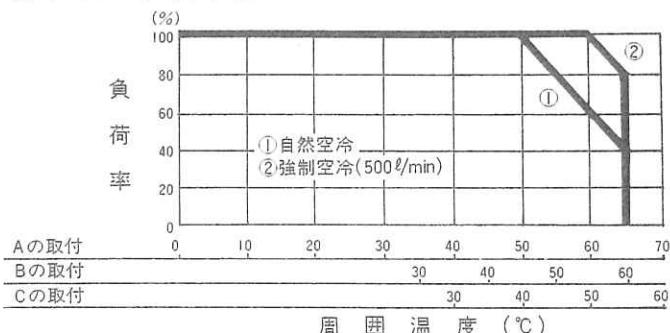
- H100を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法



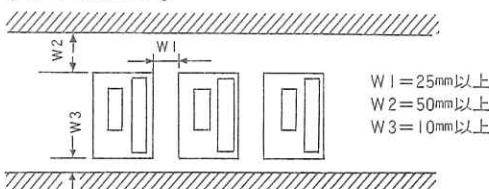
使用不可

(2) ディレーティング表



7. 複数の電源の使用

- 複数の電源を並べてご使用になる場合は、自然対流を考慮のうえ、下図を守ってください。



1. 端子配列・ボリューム

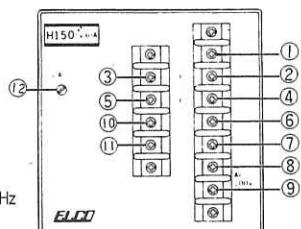
① +S リモートセンシング端子

② } +E +出力端子
③ } -E -出力端子

④ } -S リモートセンシング端子

⑤ FG 接地端子

⑥ 入力端子 AC85~110V 1φ48~62Hz
⑦ V.ADJ 出力電圧可変ボリューム



2. 機能説明

2.1 過電流保護

■ 定格電流の110~140%の電流を出力に流すと、過電流保護回路が動作します。

■ 過電流状態での使用は、電源の寿命を縮めますので、出力電流が定格内に入っていることを確認のうえご使用ください。

2.2 過電圧保護

■ 定格電圧の115~140%以上の電圧が出力に出ると、過電圧保護回路が動作して出力を遮断します。

■ 復帰は入力電源の再投入で行えますが、必ず原因を取り除いてから行なってください。

2.3 リモートコントロール

■ RC端子とSG端子（又は-S端子）をショートすると出力し、開放で出力は出なくなります。

■ TTL、トランジスタ、及びリレー接点で制御できます。

2.4 出力電圧可変

■ 出力電圧の可変は前面パネルのV.ADJのボリュームで行い右回転で高く、左回転で低くなります。

■ 可変範囲は出力電圧の±10%又は±1Vのいずれか低い方です。

■ 出力電圧をあまり上昇させると過電圧保護回路が動作する場合があります。

2.5 絶縁耐圧

■ 受入検査等で耐圧試験を行うときは電圧を徐々にあげてください。また、遮断するときもダイヤルを使用し、電圧を徐々に上げてください。特にタイマー付き耐圧試験器でのタイマー使用は避けてください。

3. 直列・並列運転

■ 2台以上の電源を直列運転（図1）される場合は定格以上の電流が流れないよう注意して行なってください。

■ 出力電流が不足する場合、図2の方法で並列運転が可能です。この時抵抗Rの電圧降下は1~3%に選んでください。

■ 負荷変動が問題になり直接並列に接続して運転したい場合には当社へご相談ください。

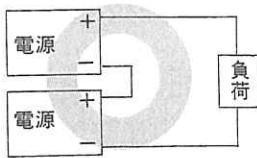


図1

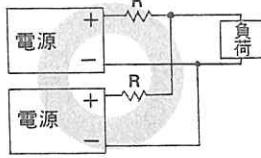
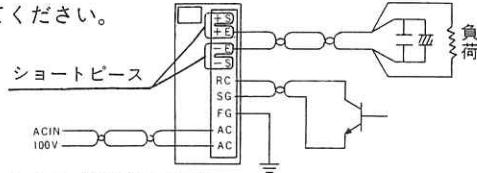


図2

4. 負荷の接続及び布線

(1) リモートセンシングを行なわない場合

■ ショートピースで+Sと+E、-Sと-Eが各々短絡されていることを確認してください。



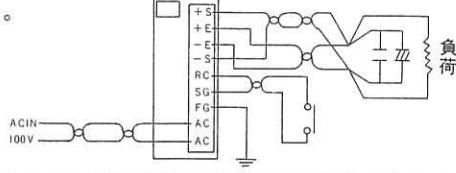
(2) リモートセンシングを行なう場合

■ ショートピースをはずして配線してください。

■ AC入力の線と出力の線は分離し、ツイストした方が耐ノイズ性能が向上しスピーカノイズも小さくなります。

■ 出力の線は太く短く配線して、ラインドロップは0.3V以下にしてください。

■ リモートセンシングのセンス線はツイストするかシールド線をご使用ください。



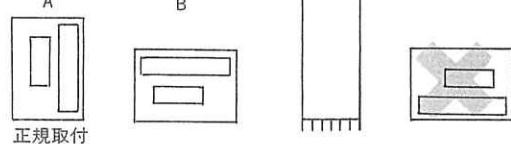
5. 取付けネジ

■ 電源の取付方法は、取付けネジと内部部品との絶縁距離を保つため、取付けネジの電源内に入る長さは5mm以下にしてください。

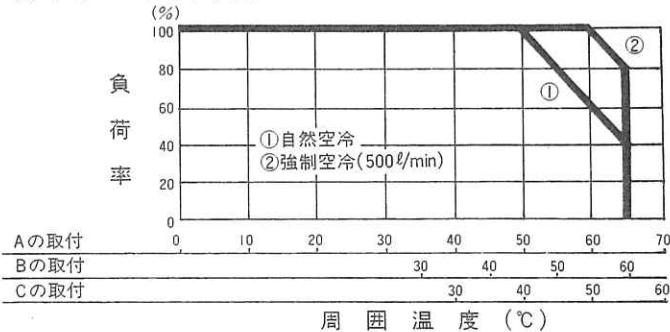
6. 出力ディレーティング

■ H150を定格温度以上、正規取付以外及び強制空冷で使用されるときは次の要領でご使用ください。

(1) 取付方法



(2) ディレーティング表



7. 複数の電源の使用

■ 複数の電源を並べてご使用になる場合は、自然対流を考慮のうえ、下図を守ってください。

